

福井県中池見湿地付近におけるノジコ

吉田一朗*¹

吉田一朗. 2007. 福井県中池見湿地付近におけるノジコ. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 12:15-17. 福井県敦賀市椋曲の中池見湿地において実施した標識調査において, ノジコ *Emberiza sulphurata* が多数記録された. 中池見湿地付近は, ノジコに秋の渡りの中継地として, 安定的に利用されている可能性がある.

キーワード: ノジコ, 中池見湿地, 標識調査

Ichiro YOSHIDA*¹. 2007. Capture records of Japanese Yellow Bunting, *Emberiza sulphurata*, in Fukui Prefecture, 2000-2002. *Ciconia* (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 12:15-17. Many Japanese Yellow Bunting, *Emberiza sulphurata*, were captured by mist-net at a reed field (WGS-84 datum; 35°39'36"N, 136°05'25"E, altitude 47 m) in Nakaikemi Marsh, Tsuruga city, Fukui Prefecture, on October and November. Japanese Yellow Bunting would be use Nakaikemi Marsh as way-stop site in autumn passage.

Key words: *Emberiza sulphurata*, Japanese Yellow Bunting, Nakaikemi Marsh, banding

はじめに

ノジコ *Emberiza sulphurata* は, スズメ目ホオジロ科に属する全長約 14cm の鳥である. 世界的に分布の狭い種で, 主に本州中部以北で局地的に繁殖し, 本州西南部以南, 台湾や中国の一部, フィリピン北部などで越冬する (中村・中村 1995; 日高 1997). 福井県では, 繁殖の記録はないが, その可能性は高い (福井県 1999). 繁殖地は日本のみが知られ, 環境省のレッドデータリストでは準絶滅危惧, 福井県のレッドデータリストでは県域絶滅危惧 II 類となっている (福井県 2002). しかも, 推定個体数は 2500 羽~10000 羽で, 減少中といわれている (日本野鳥の会 2001). また, 標識調査では, 全国で年間 200 羽程度しか放鳥されていない (山階鳥類研究所 1998). このような希少種が, 標識調査において多数記録されたので, 報告する.

調査地と調査方法

多数のノジコ (図 1) が記録されたのは, 福井県敦賀市椋曲の中池見湿地付近 (図 2; WGS-84 datum; 35°39'36"N, 136°05'25"E) での, カスミ網を使った標識調査においてである.

中池見湿地は, 周囲を山に囲まれたきわめて特異的

な袋状埋積谷で, 湿地の部分は標高約 47m, 面積は約 25ha あり, 泥炭層が厚く堆積している (B I D E N 2000). 中池見湿地は, その大部分が水田として利用されてきたが, 現在はかなり放置された状態で, ヨシ原などが広がっている. 湿地からは 1 本の川が外部に流れ出し, 付近は, うしろ谷と呼ばれている.

標識調査は, 2000 年 5 月に開始し, 1 月を除くすべての月に, 1 回以上の調査を行った. 主な網場は, 池に近い湿地中央部付近と, 林に近い湿地東部付近である. このほかに, うしろ谷の湿った草地や, 林内でも調査を行った. 調査時には, テープや CD による鳥の声を流し, 誘引を行うことが多かった. なお, ノジコ捕獲時に設置していたカスミ網の長さはすべて 12 m で, 枚数は 2000 年が 15 枚, 2001 年と 2002 年は 20 枚であった.

結果と考察

ノジコは 10 月と 11 月に記録され, とくに記録個体数が多いのは 10 月であった. なお, 本調査地においては, 標識調査以外の記録を含めても 10 月と 11 月以外には記録がない. また, ほとんどが中池見湿地内で捕獲され, 湿地中央部よりも, 林に近い湿地で多く捕獲された. ノジコはこの季節には茂みの中にいることが多く, 地鳴きでの識別は難しいので, カスミ網によ

* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author) E-mail: iyoshida@po.ttn.ne.jp

1 日本鳥類標識協会会員. 915-0096 福井県越前市瓜生町 37-28 Uryu-cho 37-28, Etizen city, Fukui 915-0096, Japan



図1 ノジコ (2000年10月7日撮影).

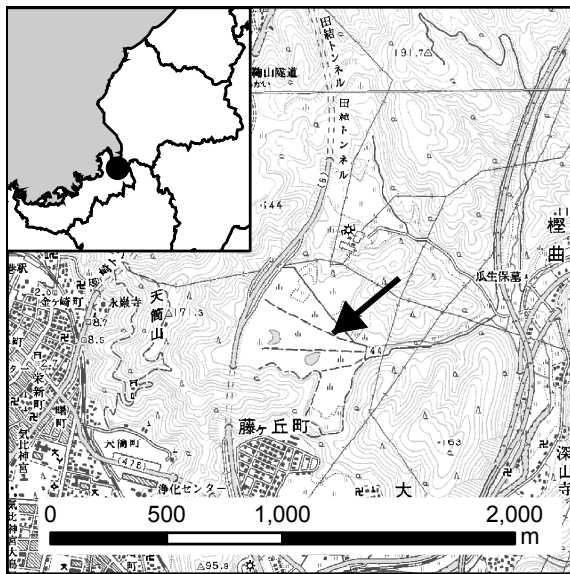


図2 中池見湿地(矢印)と周辺の状況。地形図は国土地理院(2003)発行の数値地図25000(地図画像)『岐阜』を使用した。

る捕獲調査が有効だと思われた。

2000年は、10月7日～9日の3日間で、新放鳥48羽が記録された。2001年は、10月13日～14日の2日間で新放鳥43羽、11月3日～4日の2日間で新放鳥1羽、合計44羽が記録された。2002年は、ノジ

コの声をよく流すなど、ノジコに重点を置いた調査を行った。その結果、10月12日～14日の3日間で新放鳥199羽と再放鳥7羽、10月26日～27日の2日間で新放鳥2羽、合計208羽が記録された。再捕獲があったことにより、長野県北部の繁殖地とのつながりがある可能性が出てきた。また、前年放鳥された個体に戻ってきたことも確認された。さらには、中池見に3日以上滞在している個体がいるらしいことも確認された。

これらの結果から、ノジコは、中池見湿地付近を秋の渡りの中継地として、安定的に利用していることが示唆された。また、10月上旬に入ってから中旬にかけて多く渡り、下旬には少なくなっていくと考えられる。

特に2002年の調査では、少なめに見積もっても、推定個体数の2%以上が捕獲されたと考えられる。当地域を訪れるノジコの個体数の推定は困難であるが、調査日が限られていることや、カスミ網を設置した範囲が当地域の一部であることを考慮すると、捕獲数を上回る個体数のノジコが、中池見湿地付近を利用していることが予想される。また、渡りのルートが特定の地域に集中している可能性もある。

本調査結果は、ノジコの保護や、中池見湿地付近

の保全を考える上での、基礎資料になると思われる。
さらに詳しい調査を行うことが重要であると考えられる。

引用文献

- B I D E N (京都・神戸・福井3大学合同中池見湿地
学術調査チーム・日本生物多様性防衛ネットワー
ク). 2000. 中池見湿地(福井県敦賀市)学術調
査報告書 第二次調査結果の報告. 94pp.
- 福井県福祉環境部自然保護課(編). 2002. 福井県の
絶滅のおそれのある野生動物 2002 福井県
レッドデータブック(動物編). 243pp. 福井県
福祉環境部自然保護課, 福井県.
- 福井県県民生活部自然保護課(編). 1999. 福井県の
すぐれた自然 動物編. 452pp. 福井県福祉環境
部自然保護課, 福井県.
- 福井県県民生活部自然保護課(編). 1998. 福井の鳥
とけものたち. 222pp. 福井県福祉環境部自然保
護課, 福井県.
- 日高敏隆. 1997. 日本動物大百科第4巻 鳥類 II.
180pp. 平凡社, 東京.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑
(陸鳥編). 301pp. 保育社, 大阪.
- 日本野鳥の会編集局(編). 2001. アジアのレッド
データブックの野鳥たち. 野鳥 643:4-10.
- 山階鳥類研究所. 1998. 平成9年度鳥類標識調査報告
書. 206pp. 山階鳥類研究所, 千葉.